



低處高思

～自ら啓き 未来を拓く～

令和5年8月31日

発行 北垣内 博

勝負の時を迎え、それぞれが「本気になる」2学期を！

およそ一ヶ月の夏休みは、あっという間に終わりました。生徒一人ひとりの努力で大きな事故もなく、こうして元気に顔を合わせることができたことが何よりです。ありがとうございました。

一学期終業式で時間的余裕は、人の心をゆったりとさせるけれど、時間的余裕が人を駄目にした例もたくさんあること、私たちは時間的余裕に試されていることを伝えました。計画的に思いっきり楽しむ様子がみられたでしょうか。

多くの人とよいつながりをつくる、身の回りに起きていることを論理的に考える、これからの自分を予測してみる、未来の世の中を想像してみる、自身の感性を磨く、今ある自分の知識や技能をフル活用する体験や、今しかできないことに挑戦することはできていたでしょうか。

今シーズン、この夏のメジャーリーガー・大谷翔平選手の活躍は、皆さん、ご存じのことと思います。しかし、「二刀流」と言えば、剣の達人「宮本武蔵」もいます。武蔵は、六十回にわたる勝負で負けはしなかったけれども、勝てなかった試合がたった一度だけあったようです。その相手、若者の構えは隙だらけでありましたが、武蔵が詰め寄ったその時、若者は一瞬、すっと目を閉じ、死を覚悟しての構え、ただ剣のみに自分の心も体も任せての気迫ある構え、「鬼気」の構えであったというのです。その若者の気迫に武蔵は、打ち込んでいくことができませんでした。助かろうとしたのではない、その場から逃げようとしたのでもない、剣に自分の心と体を託した「鬼気の構え」であったのです。

この気迫は、どこから来ていたのでしょうか。誰の力を借りたのでもない、若者自身がつ、「本気になる（心からそう思う）」ということだと思います。本気の本という字は、辞書によれば「土台」とか「根っこ」の意味です。この勝負は、私たち一人ひとりに本来与えられている「土台」「根っこ」を出し切って、今を生きよ、と教えてくれているのではないのでしょうか。

二学期は勝負のときと言えます。「本気になる」ということを心に刻んでおきたいと思います。すべての生徒が安心して楽しく生活できる日々を、すべての生徒の可能性がひらかれていく学校を、全校生徒と共に、実現できるよう励んでいきたいと思います。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

天候に恵まれ、多くの学びが得られた 2学年乗鞍宿泊学習

7月20・21日に2学年乗鞍宿泊学習を行いました。1日目の登山、2日目の信州大学での学びは天候にも恵まれ、無事に行ってくることができました。ありがとうございました。

山頂からの眺めや大学生と共に歩いたキャンパスは、忘れることのない体験になったことと思います。あきらめずに挑戦すること、進路を自ら切り拓いていくことの大切さを学んだ生徒たちの今後の活躍を期待しています。

